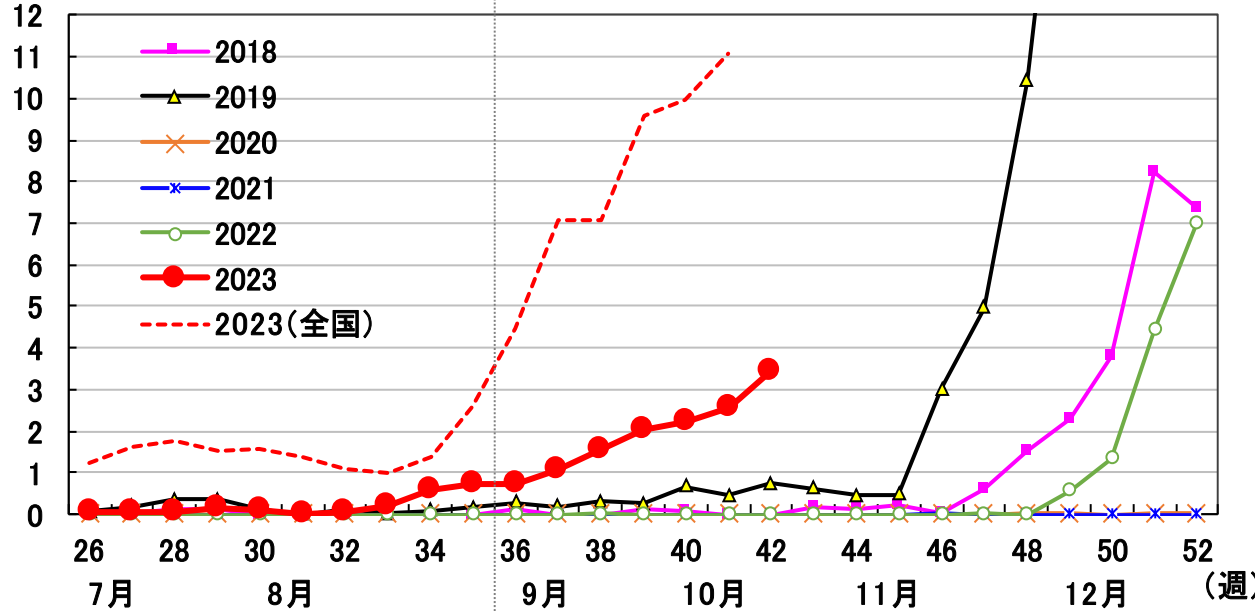


# インフルエンザの発生状況(富山県)

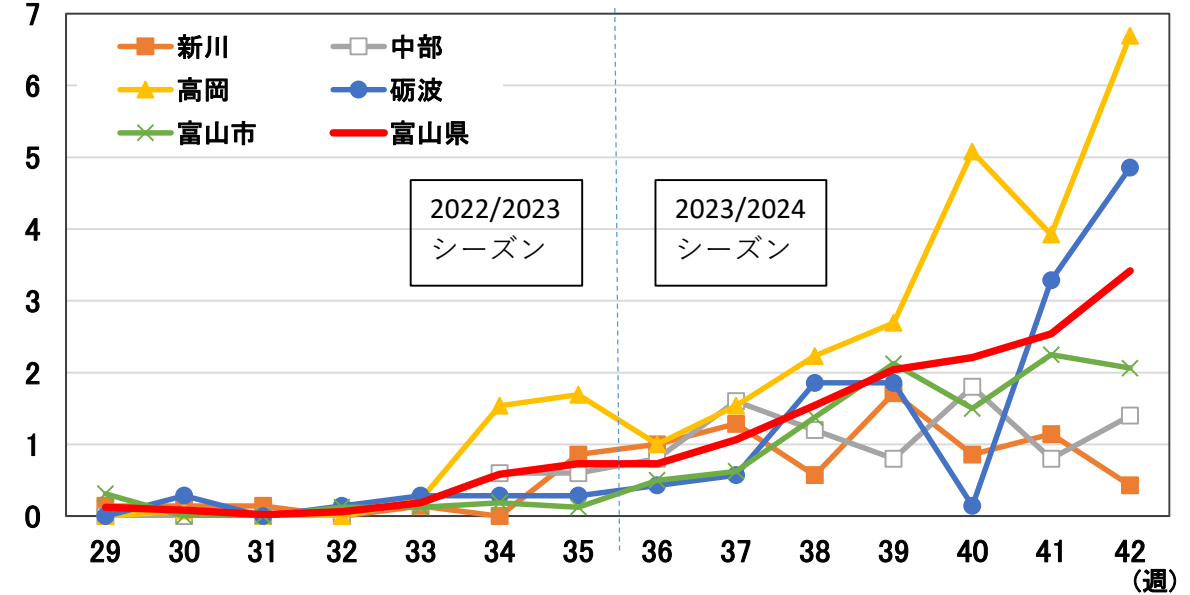
【第42週(2023/10/16~10/22) 感染症発生動向調査速報値 (2023/10/25時点)】

(人/定点)

図1. 患者報告数の推移(富山県)



(人/定点) 図2. 厚生センター・保健所別患者報告数(2023/2024)



- 富山県の患者報告数は第36週以降緩やかに増加しており、今週(第42週) 3.42人/定点となった。
- 厚生センター・保健所別に見ると(図2)、高岡、砺波管内で増加がみられた一方、新川管内では前週より減少した。

図3. 年代別割合(富山県、第42週)

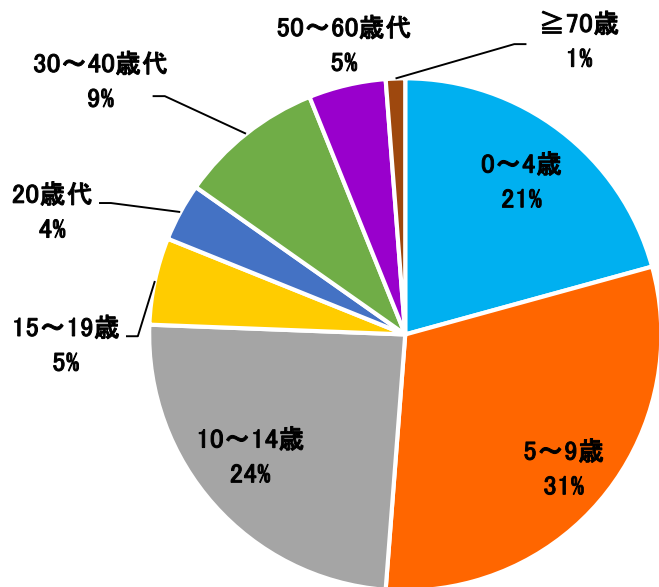
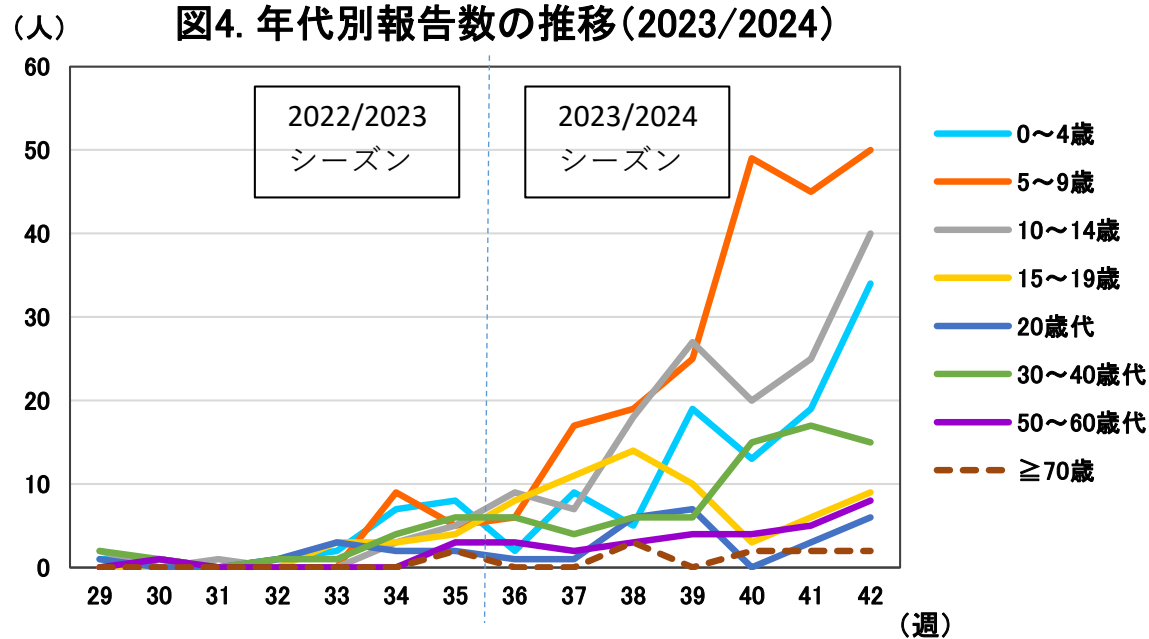


図4. 年代別報告数の推移(2023/2024)



- 富山県の第42週の年代別割合（図3）では、15歳未満の小児が76%を占めた。
- 年代別報告数の推移（図4）では、0~4歳（水色）、10~14歳（灰色）の年代の報告数が増加した。報告数が最も多い5~9歳（オレンジ）は高止まりの状況。そのほかの年代はほぼ横ばいであった。
- 第42週に中学校3施設でインフルエンザ様疾患による学級閉鎖の報告があった。

図5. 都道府県別インフルエンザ報告状況(第41週)

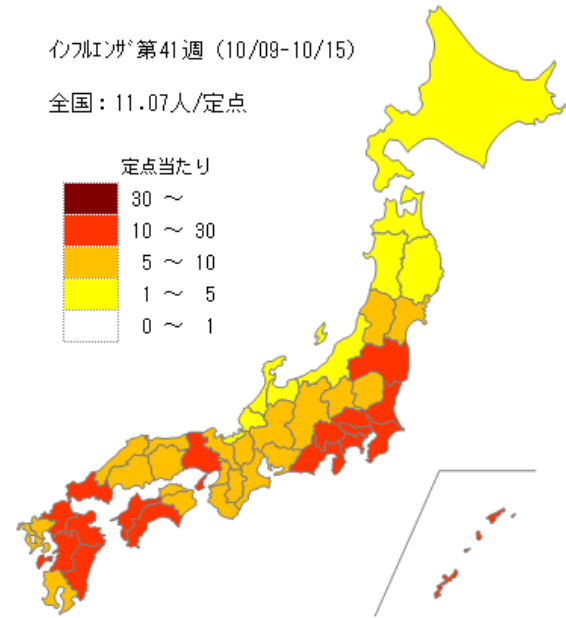
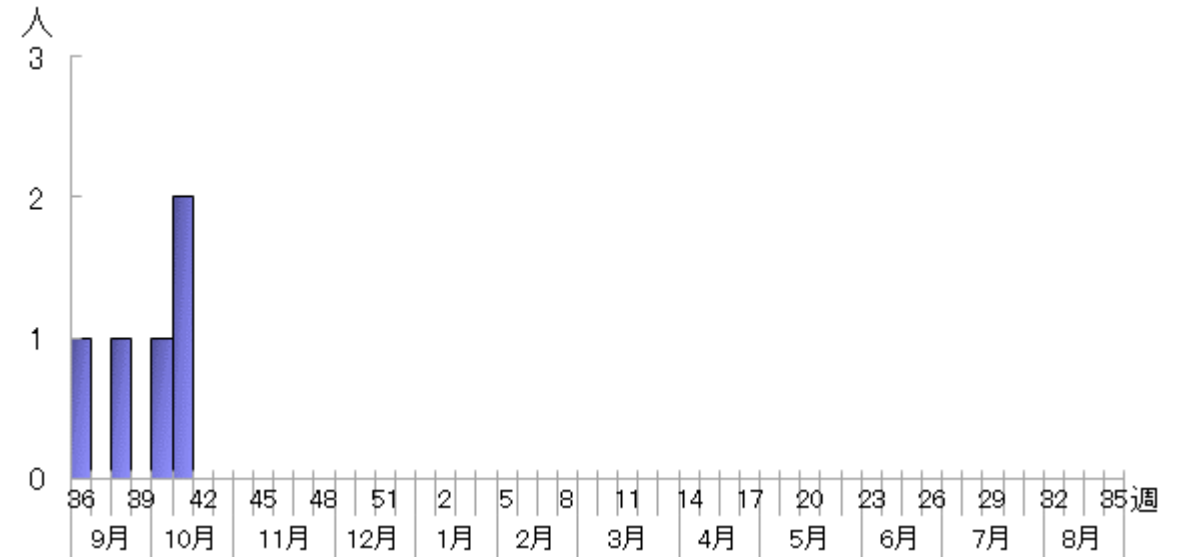


図6. インフルエンザ入院患者報告数(第42週)



- 全国では第41週に11.07人/定点となり、注意報レベルの目安である定点当たり10人を超えた。都道府県別（図5）では17都県で10人/定点を超えている。
- 県内5か所の基幹定点医療機関を対象に実施するインフルエンザ入院サーベイランス（図6）では、第42週は入院の報告はなかった。
- 今シーズンは、例年より早期にインフルエンザの流行が認められた。全国に比べて緩やかではあるが患者数の増加傾向が続いており、今後の発生動向を注視する必要がある。